

鹿児島県立錦江湾高等学校図書館だより

カラフル

2024. 09 No. 06



読書の秋を満喫しよう♪

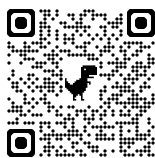
蔵書検索ができるようになりました！

本の返却をお願いします！

自分のスマートフォンやタブレットからまほら館の蔵書を検索・予約できるようになりました。

二次元コードを読み込むか、URL を入力してアクセスしてください。

URL : <https://private.calil.jp/gk-2004890-aclal/>



夏休みまでに借りた本は必ず返却して下さい。

返却期限 9月4日(水)まで

★ページがとれたり、汚れてしまったり、借りた心当たりのない本の返却督促状が届いたときなどは、**早急に図書館に相談に来て下さい。**



新書月間を終えて・・・



7月は「新書を読む月間」でした。新書は、章の内容が独立しているものも多く、最初から読まなくてはならない小説よりも、忙しい高校生のみなさんにおすすめの本です。

今回、初めて新書を手にとった人も、普段から読んでいる人も、この期間に読んだ新書の感想や錦江湾高校生に読んで欲しい新書のこと、購入して欲しい新書についてなど、友だちや先生方と話題にもらえるとうれしいです。



新書月間に読んだ新書の感想を一部紹介します

ゴリラは戦わない / 山極 壽一著 小菅 正夫著 (中央公論新社)

「ゴリラ」というと、凶暴などのクマやライオンのような怖さを思い浮かべていた。人に襲いかかってきそうと思っていた。しかし、そのイメージはほぼ真逆だった。題名のとおり、ゴリラは戦いを好まない。群れで動く平和主義の動物だった。考えてみたら「ゴリラに襲われた」というニュースを一度も耳にしたことはない。私はゴリラの濃い顔とオーラが大好きでこの本を選んだ。まだ半分も読み終わっていないが、ゴリラの好きところがたくさん増えた。もっと知りたいし、実際に会いたくなった。平川動物園に来てくれることを願う。



身近な雑草のふしぎ / 森 昭彦著 (ソフトバンククリエイティブ)

植物も生きるのに必死なんだと思いました。例えばタンポポ戦争というものがあったりすることを知れました。また植物にも寄生植物という物があったりすることを知れた。このように新書を読むことで知らなかった知識を増やすことができた。これからはいろんなジャンルの本を読んでいきたいと思った。



ラグビー日本代表を変えた「心の鍛え方」 / 荒木 香織著 (講談社)

「メンタルは鍛えることができる。メンタルはスキル。ただし、スキルの習得にはそれなりに時間がかかる」という一文に納得した。ルーティーンはゲン担ぎではなく、その動作に入るということを体に理解させるためにする。僕は、メンタルはどうにもならないと思っていたが、この本を読んでメンタルは鍛えることができるとわかったので、部活で活かせるようにしたい。

時間はなぜ取り戻せないのか / 橋元 淳一郎著 (PHP 研究所)



この本はタイトルから見たらわかるとおり、「時間」について詳しく書かれている。当たり前ではあるが、過ぎ去った時間を取り戻すことはできない。また、まだ来ぬ未来を予見することもできない。その理由がこの本には書かれている。それは時間が流れているからだ。時間の流れを創っているのは、物理的時空ではなく、生きる意思であった。私が心に残った言葉は「あなた自身が、過去と未来を創り出すのである」という言葉だ。今も、時間が少しずつ過ぎ去っている。1日1日を大事にして生きていきたい。

人体の限界 / 山崎 昌廣著 (SB クリエイティブ)



この本で人体の限界がよくわかりました。人間の嗅ぐ力は最新の機器にも引けを取らないことや、人間の投げる能力はどの動物にも勝るなど、普段は絶対に知らないことをたくさん知れました。中には、健康の限界や、心理機能の限界まで書いてありました。運動系の部活に入っている人や、スポーツが好きなお人にはピッタリだと思います。運動が苦手な自分でも楽しく面白く読める本でした。

スマホ脳 / アンデシュ・ハンセン著 久山 葉子訳 (新潮社)



皆、日常的に使っているスマホ。この本はそのスマホを手放せなくなってしまう理由を分かりやすく解説しています。この本を読んだ後、「自分はスマホを利用しているのではなく、利用されているだけなのではないのか？」とってしまう本でした。

新着図書案内



1 書店員は見た! / 森田 めぐみ著 (大和書房)

ネットで注文すれば、すぐにポストに本が届く時代。それでも書店に行けば、予期せぬ出会いが待っている。読んだらきっと書店に、図書館に行きたくなるはず。



2 もし友だちがロボットだったら? / ピーター・ウォーリー著 永井 玲衣訳 小川 泰治訳 古賀 裕也訳 後藤 美乃理訳 田中 理紗訳 得居 千照訳 西山 溪訳 堀越 耀介訳 (晶文社)

短い物語のあとに続く一連の問いをたどり、活発な議論と奥深い思考の世界へ子どもたちを導く。準備ゼロでも楽しめる哲学対話のプレイブック。



3 世界で一番美しい海に浮遊する幼生図鑑 / 横田 有香子写真 水口 博也編 (誠文堂新光社)

海中に漂うさまざまな稚魚、エビ、カニ、イカ、タコ、クラゲなどの幼生・幼体が見せる興味深い姿とその生態を紹介する。



4 病気を遠ざける! 魚の缶詰レシピ / 白澤 卓二監修 検見崎 聡美料理 (河出書房新社)

いいことづくめの魚の缶詰。ツナ缶やさばみそ煮缶等の魚の缶詰を使った簡単おいしいレシピを59品紹介する。



5 言語学的ラップの世界 / 川原 繁人著 Mummy - D 述 晋平太述 TKda 黒ぶち述 しあ述 (東京書籍)

日本語ラップをこよなく愛する言語学者が、韻に込められた「ことば遊び」を分析する。「ラップを学問する効用」についても具体的に伝える。Mummy - D、晋平太、TKda 黒ぶちへのインタビューも収載。



12 カネオくんと学ぶおどろき! 現代社会とお金のヒミツ / NHK「有吉のお金発見突撃! カネオくん」制作班編 (翔泳社)

生活に密着した商品やサービス、最先端技術、社会現象などをテーマにお金にまつわるヒミツをわかりやすく解説する。



7 ハジマリノウタ。 / 高橋 びすい著 (飛鳥新社)

カラオケ店で偶然陰キャ女子・瑠歌の歌声を聞き、その歌唱力に惚れ込んだ学年一の秀才・奏太。奏太がキーボードを担当し、彼女と音楽ユニットを結成し、学園祭のステージにエントリーするが…。



8 君を守ろうとする猫の話 / 夏川 草介著 (小学館)

中学2年生の幸崎ナナミは、喘息の持病があるため、学校が終わるとひとりで図書館に足を運ぶ生活を送っている。その図書館で、最近本がなくなっているらしい。館内の探索を始めたナナミは、翡翠色の目をした猫と出会う。



9 一線の湖 / 砥上 裕将著 (講談社)

湖山賞をかけて千瑛と競った展覧会から2年。大学3年生の霜介は進路に悩んでいた。そんな時、亡き母が勤めていた小学校から水墨画教室の依頼を受けることになる。「線は、僕を描く」の続編。



10 クスノキの女神 / 東野 圭吾著 (実業之日本社)

神社に詩集を置かせてくれと頼んできた女子高生の佑紀奈には、玲斗だけが知る秘密があった。不思議な力を持つクスノキと、その番人の元を訪れる人々の物語。



11 タスキ彼方 / 額賀 滯著 (小学館)

新米駅伝監督・成竹と学生ナンバーワンランナー神原は、戦時下に箱根駅伝開催に尽力したとある大学生の日記を受け取った。箱根を走ること命を賭けて挑み散っていった青年たちの熱い想い、青春を令和の現代と交錯させて描く。



6 俺たちの箱根駅伝 上・下 / 池井戸 潤著 (文藝春秋)

2年連続で箱根駅伝の本選出場を逃した崖っぷちチーム、古豪・明誠学院。4年生の主将・隼斗にとって、10月の予選会が最後の挑戦となる。絶対に負けられない戦いが始まる!



9月の出張まほら館は9/10(火)と9/24(火)
(8:00~8:15)を予定しています。

